

令和8年度 第1回 全国健康保険協会千葉支部評議会概要報告（速報）

開催日	令和8年7月13日（月） 14:00～16:00
開催場所	日本生命千葉駅前ビル4階 千葉支部会議室
出席者	椎名評議員、新谷評議員、鈴木評議員、中曽根評議員、中野評議員、宮本評議員、山口評議員（五十音順）
議題	1. 協会けんぽの2025（令和7）年度決算（見込み）等について【報告事項・審議事項】 2. 令和7年度千葉支部事業報告について【報告事項】 3. その他報告について【報告事項】
議事概要（主な意見等）	
事務局より、各議題について説明を行った。 各評議員からのご意見等は以下の通りである。 1. 協会けんぽの2025（令和7）年度決算（見込み）等について【報告事項・審議事項】 【事業主代表】 単年度収支差が前年度より増加している要因の一つとして、賃金の伸びや加入者数の増加が影響していると考えるが、加入者数が増加している要因は何か。 【事務局】 日本年金機構で推し進めている適用拡大により、今まで国民健康保険に加入していた方やパート等で働いている被扶養者が社会保険の適用を受けるようになったことが加入者数の増加に寄与している。 【事業主代表】 昨年度においても同様に加入者数は増加傾向であったと思うが、こういった傾向がしばらく続くということか。 【事務局】 適用拡大は対象となる事業所の規模が段階的に拡大され、短時間労働者も社会保険の適用となっていくことから、被保険者数が増加する一方で、被扶養者が減少する傾向が今しばらく続くものと考える。 【被保険者代表】 短時間労働者については数年前に制度改正を行っており、すでに相当数が被扶養者から被保険者に移行している。今後対象となるのは、小規模事業所となるため、被保険者数が大幅に増加するとは考え難い。むしろ、非正規から正規雇用に切り替わる方が増加する影響	

があるものと思慮する。

【被保険者代表】

収支差がプラスとなり準備金残高が更に積み上がることとなるが、これにより国庫補助が減額されると保険料率への影響が懸念される。これに対し、協会けんぽとして今後も減額されないための働きかけを行っていくスタンスでいいのか。

【事務局】

国庫補助の減額は協会けんぽとしても憂慮している点なので、今後も厚生労働省と調整する必要があるものと考えている。

【被保険者代表】

国庫補助が減額されれば、収入が増加しても財政状況は厳しいものとなり、今まで協会けんぽが取り組んできた医療費適正化等の努力が無駄となってしまう。国庫補助があるからこそ適切な制度運営が可能となり、協会けんぽがセーフティネットとしての役割を果たすことに繋がっていく。ぜひ、全国一丸となって国庫補助が減額とならないよう継続的な働きかけを行っていただきたい。

【学識経験者】

国庫補助に係る時限措置により、今後3年間は約500億円減額されることとなったが、時限措置終了後の取り扱いはどうなるのか。

【事務局】

現時点では未定である。

【被保険者代表】

準備金残高が積み上がっている状態を国がどのように判断するのかが気になる。国の判断に対し、協会けんぽはどんな状況であれ、これまで中長期的な視点でやってきたことを主張することが重要である。

【学識経験者】

国に対しては、協会けんぽとして論理立てて説得力のある説明を行っていただきたい。

【事務局】

承知した。

【学識経験者】

準備金残高が 7.2 カ月分（6.5 兆円）というのは多いのか、少ないのか。

【事務局】

2025 年度における準備金は、法律上保険給付費等の 1 カ月分相当（約 9 千億）とされている。

【被保険者代表】

協会けんぽの財政状況は楽観視できないものであることから、危機に備えて準備金残高を積み上げていると理解している。

【学識経験者】

後期高齢者支援金の支出額が増加し続けている点について、市町村や国保連、広域連合等が集まる会議の場で千葉支部の意見として、現状を伝えたほうが良い。

【事務局】

協会けんぽとしては、加入者が可能な限り健康な状態を維持し、医療費がかからない状態で後期高齢に移行できるよう、現役世代の健康づくりに取り組んでいるところであり、そのことが後期高齢者支援金の抑制にもつながっていく。引き続き現役世代の健康づくりに注力していきたい。

2. 令和 7 年度千葉支部事業報告について【報告事項】

【学識経験者】

CKD への取り組みは医療費適正化としての効果が高く、県も注力している。保健師が不足している状況ではあるが、やれば効果が出るところなので継続して取り組んでほしい。

【事務局】

重症化予防は本部による一次勧奨、さらにその後、支部において文書での二次勧奨を実施している。CKD への取組として、CKD の疑いがある未治療者に対し、千葉県作成の CKD に関するチラシや専門医の一覧を同封し、文書勧奨を行っている。引き続き市区町村とも連携しながら取り組んでまいりたい。

保健指導は直営保健師の定数があるため、実施できる件数には限りがあるため、外部委託事業者の活用や健診機関と連携して、健診当日に保健指導を実施できるような体制づくりを進めていきたい。また、令和 8 年度から富津市、銚子市と連携した特定保健指導を進めているところである。

【被保険者代表】

市町村と連携することで保健指導実施率の向上が期待できるのではないか。働きかけを行っていただきたい。

【学識経験者】

健康宣言事業の対象となる千葉支部の事業所は何社か。

【事務局】

約 10 万社となるため、健康宣言実施率は 3 %程度となる。

【学識経験者】

継続して健康宣言の普及に取り組んでいただきたい。

【被保険者代表】

レセプト G が事業実施結果の自己評価を「△」としている点について、被保険者数が増えていく中、レセプトの数も増えることが予想されるので、対象レセプト件数や実際の点検数等を示すなど、具体的な数字と一緒に自己評価を判断すべきである。併せて、分かりやすい資料作りを心掛けてほしい。また、全体としてマンパワーが不足していることが影響して自己評価が「△」となっている事業もあるのではないか。この点については、加入者数の増加を加味した適切な職員配置を行うべきである。

【事務局】

本部が実施した業務量調査の結果、千葉支部のレセプト点検員の定員枠は増えたが、実数として定員割れしている状況である。

【被保険者代表】

レセプト点検員は外部委託も難しいと思われるので、人材育成に努めてほしい。

【学識経験者】

令和 7 年度の事業結果を通じて課題が見えてきたと思う。今年度の事業実施に活かしてほしい。

3. その他報告について【報告事項】

【学識経験者】

（「中期戦略プラン」について）不確定な要素が多い中で 2040 年に向けた取組を行うのは難しい。適宜修正を加えながら取り組んでいただきたい。

特記事項	次回は令和 8 年 10 月に開催予定。
------	----------------------